

プロロジス、次世代型物流施設の開発を見据え AI ロボット活用でパートナーと協働



「プロロジスパーク千葉ニュータウン」倉庫内の無人搬送ロボット

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス（日本本社：東京都千代田区）は、EC 物流業務代行の株式会社アッカ・インターナショナル（本社：東京都港区、以下アッカ）と、基本合意書を取り交わし、物流分野における次世代技術の活用に取り組むことを発表しました。

このたびの合意により、プロロジスが運営する賃貸用物流施設「プロロジスパーク千葉ニュータウン」において、ロボットによる物流業務がスタートします。プロロジスは、ロボット導入にあたり施設仕様の最適化などについて支援。アッカが、7月よりテスト稼働を開始し、荷主であるビルケンシュトック社日本法人の賛同を得て、8月からは実際の物流業務を行います。

使用するのは、AI 機能を持つ無人搬送ロボット 30 台。ロボットは、ステーションと呼ばれる出荷場所まで荷物を載せた棚を自動で運ぶことで、ピッキングや棚入れ作業時の人による作業量を軽減します。ロボットはギークプラス（本社：中国北京市）が開発したもので、中国最大の EC モール、アリババグループの「T-mall（天猫）」などが採用。国内の物流施設では初の導入となります。



■ 本取り組みの背景と狙い

EC 事業者や物流事業者にとって、物流施設内の労働力不足が大きな課題となっています。省人化への取り組みとして、各社が新技術の開発や導入を進めているが、有効性の検証事例はいまだ少なく、非公開のことも多いのが現状です。

プロロジスは、物流現場のニーズに応える次世代の物流施設のあり方を検討しており、国内における第
(裏面へ続く)

一弾としてこのたびの取り組みに至りました。このたびのロボット導入を通して、物流施設内のIoT化や、AI・ロボット活用について施設面での課題を検証。次世代の物流オペレーションに適した施設開発の参考とします。また、実証実験によって得られた知見やデータの公開を予定し、9月には荷主企業や物流事業者を対象とした見学会を計画中です。

プロロジスは、今後も、「プロロジスパーク千葉ニュータウン」をはじめ運営中施設において、カスタマーやパートナーと協働し、新技術の検証・開発プロジェクトを検討中です。引き続き物流現場の業務効率化をサポートするとともに、業界の発展にも寄与することをめざします。

■ プロロジスパーク千葉ニュータウンについて

「プロロジスパーク千葉ニュータウン」は、5階建て延床面積約129,000㎡の大型の先進的物流施設として、2016年5月に竣工しました。アパレルEC大手のスタートトゥデイをはじめ、賃貸面積の約9割が、ファッション・アパレルEC物流を行う入居カスタマーにより利用されています。

施設概要：http://www.prologis.co.jp/special/2016/pp_chibaNT/

アッカ・インターナショナルについて (<http://ecfactory.jp>)

アッカ・インターナショナルは400以上のアパレルブランドを取り扱うフルフィルメントサービスプロバイダーとしてロジスティクス、カスタマーサポート、商品撮影スタジオ、サイトクリエイティブまでの業務オペレーションを提供。また、商品データ在庫一元管理システムALIS(アリス)は、デマンドウェアの受注管理システムとして(OMS)としても機能し、店舗在庫連携などのオムニチャネルも対応している。

プロロジスとパートナーシップを組み、「プロロジスパーク千葉ニュータウン」では、衣料品のモデル撮影から、ECサイトへの掲載、出荷、返品対応のほか、コールセンターによる顧客対応や、在庫一元化システム等のシステム構築・開発を行う。同施設内で、プーマジャパンなどアパレルを中心に複数企業のEC物流業務を受託している。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室 担当:古川
TEL: 03-6860-9107 / FAX: 03-6860-9020
E-mail: sfurukawa@prologis.co.jp